![MCNA01357_0000[1]]()

教材研究ノート№2-A-1￥

≪学習問題≫

パンジーが　17こ　さいて　います。

4こ　さくと　なんこに　なりますか。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・(何十何)＋(何)で繰り上がりのない暗算や，和が(何十)になる暗算の仕方を理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・10の補数や10の束を作る学習をしている。

○共同追究でのゆさぶり

・(2位数)＋(1位数)で，繰り上がりのあるたし算の計算方法を考えるのは初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・計算棒を使って10の束をつくり，数える学習をしている。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し: 17＋3＝20だったので、20より多くなる。

→17＋3よりいくつ大きくなるか考えればよさそうだ。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題: 計算棒や図を使って、繰り上がって20より多くなる計算の仕方を考え，説明しよう。

③個人追究:4を分解して10の束をつくり計算方法を考える。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「計算の仕方で，同じ様に考えていることは，何だろう？」

→「10の束を作っている。」

　「一桁の計算と同じように10の束をつくっている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「20より大きい数になると，どうやって予想できたのかな？」

→「17＋3が20だから，4は3より1大きいから。」

「7に3をたすと10の束ができるので，10の束が2つになり，20より大きくなることが分かる。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・たす数を分けて何十を先にすると，10の束の数が分かって数えやすい。

・繰り上がるときは，いくつなら10になるのか考えて，たす数を分けて考えればよい。

⑥定着･活用問題

(1)48にいくつをたすと，50より大きい数になるでしょうか。

(2)39＋□のとき，□をいくつといくつに分けて計算しますか。

(3)56＋□で，□に5から9までの数を入れるとき，いくつといくつに分けるか考えて計算しましょう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・計算棒などによる具体的な操作を通して，暗算の仕方を視覚的にとらえる中で，徐々に念頭で処理できるようにすることを大切にする。

・前時と関連付けて答えの見当をつけさせ，繰り上がりを見越して何十がつくれるよう加数を分解することを，計算棒を使って説明できるようにする。

【板書計画】